

単元案の概要

単元名:「値段交渉はできる? 決済手段は?」—日本と中国における購買行動の異同					
科目名	中国文理解	作成日	2017年10月1日	作成者	柳 素子
学年/年次	2	クラス人数	8	使用教材	『高校中国語』(白帝社)、自作プリント
話題分野	買い物	言語レベル	1	必要時間数	授業内9時間+授業外(校外学習、研修旅行におけるインタビュー、学年集会における発表)
単元目標					
<p>・中国語の4技能(読む・書く・聞く・話す)の向上 (買い物をテーマにしたスキットを作成し、値段交渉の可否や決済手段について尋ねることができる。)</p> <p>・日中文化の異同への理解および文化発信力の向上 (中国では店によっては値段交渉が可能であり、スマホ決済も普及していることを理解する。また、それを学年集会で他の生徒へ発信することができる。)</p> <p>・情報機器の多面的な学習における活用(個別・協働学習の促進、活動の効率化) (発音矯正(Dragon Dictation)、動画作成(iMovie)、統計シート作成(エクセル)、プレゼンテーション(ロイロノート)などにおいて情報機器(アプリ)を活用することができる。)</p>					
コミュニケーション能力指標					
<p>話題分野【買い物】 レベル2~3</p> <p>2-a お店や売場の場所、買いたいものの有無や値段などを、尋ねることができる。</p> <p>2-h 支払い場所や支払い方法を尋ねて、代金を支払うことができる。</p> <p>3-b 値段の交渉をすることができる。</p>					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
<p>日本人生徒と中国ルーツの生徒で小グループを作り、以下の活動を行う。</p> <p>①日本と中国の個人商店(屋台でもよい)における買い物の場面のスキットをそれぞれ作成し、セリフを覚える。(2-a,3-b)</p> <p>②中国国内の商店で決済手段を尋ねる表現を含むインタビュー原稿を作成し、セリフを覚える。(2-a,2-h)</p>			<p><場面状況></p> <p>K高校の「中国文理解」の授業では、「日本と中国における購買行動の異同」をテーマにプロジェクト型学習を行うことになった。中国ルーツの生徒と日本人生徒が協力しながら動画作成やリサーチを行い、日中文化の異同について理解を深める。また、活動の過程においては、中国食材店、中華街、中国国内のコンビニでもインタビューを行う。</p> <p><活動の流れ></p> <p>①数字の復習をした後、買い物の表現について練習する。 (アプリ「Dragon Dictation」を使って発音矯正)</p> <p>②日本と中国における買い物の場面のスキットを作成する。 (日中の生徒による協働学習)</p> <p>③スキットの内容をふまえ、日中における購買行動の異同(現金を使用した場合)について考察する。</p> <p>④学校の近くの中国食材店で会話実習(値段交渉の可否)</p> <p>⑤(エリア校外学習) 神戸中華街で会話実習(値段交渉の可否)</p> <p>⑥④、⑤の会話実習のふりかえり(リフレクションシートへの記入)。</p> <p>⑦日本と中国における決済手段の種類についてのディスカッション。</p> <p>⑧研修旅行先で使うインタビュー原稿の作成、発音練習、アンケートの準備。 (アプリ「Dragon Dictation」を使って発音矯正、日中の生徒による協働学習)</p> <p>⑨(中国研修旅行) 中国研修旅行に参加する生徒(一部)は決済手段について現地の店で聞き、動画を撮る。(アンケートの依頼)</p> <p>⑩②で作ったスキットの動画(字幕つき)を撮り、⑨の動画(字幕付き)、統計処理を行ったアンケート結果と合わせてプレゼンソフト(アプリ「ロイロノート」)にまとめる。</p> <p>⑪(学年集会)でロイロノートを使って発表。</p> <p>⑫発表のふりかえり(リフレクションシートへの記入)。</p>		
評価					
形成的評価			総括的評価		
<p>以下の成果物を評価対象とする。</p> <p>・買い物の会話(値段交渉の可否)のスキット原稿</p> <p>・「中国食材店」や「中華街」での会話実習後に書いたリフレクションシート</p> <p>・買い物の会話(決済手段を尋ねる)のインタビュー原稿</p>			<p>以下の成果物、発表内容を評価対象とする。</p> <p>・ロイロノートのスライド(字幕付きの動画、統計シート)</p> <p>・「学年集会」におけるパフォーマンス(中国語による説明)</p> <p>・「学年集会」後に書いたリフレクションシート</p>		

3×3+3 分析表

単元名：「値段交渉はできる？決済手段は？」—日本と中国における購買行動の異同

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	・値段の尋ね方、値段交渉の言い方、決済手段の尋ね方の表現がわかる。	・日中の購買行動(値段交渉、決済手段)における異同について理解することができる。	・情報機器、アプリ(Dragon Dictation、iMovie、ロイロノート)の使い方について理解できる。
できる	・値段の尋ね方、値段交渉の言い方、決済手段の尋ね方の表現を使うことができる。	・日中の購買行動(値段交渉、決済手段)における異同の事由およびその背景にある考え方や価値について分析することができる。	・情報機器、アプリ(Dragon Dictation、iMovie、ロイロノート)を実際に使って、発音矯正、動画作成およびプレゼンの準備ができる。
つながる	・校外(近所の中国食材店、中華街、研修先の中国瀋陽)の中国人に値段交渉の可否、決済手段についてインタビューすることができる。	・校外の中国人との交流を通じて、日中文化の異同について学び、視野を広げることができる。	・情報機器、アプリを使って作成した成果物を校内の集会で紹介し、フィードバックを得る。
三連携	【学習者】 情報機器の活用 【教室外】 近所の中国食材店、神戸中華街、中国研修旅行でのインタビュー、学年集会での発表 【他教科】 情報科		

総括的評価のルーブリック

→レベル	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
↓評価要素				
語彙	買い物に関する語彙について積極的に学び、発表等で使うことができた。	買い物に関する語彙についていくつか使うことができた。	買い物に関する語彙についてほとんど使うことができなかった。	買い物に関する語彙について何も使うことができなかった。
文化事象の相違性の考察	日中の買い物の仕方(値段交渉、決済手段)を比較してわかった異同の事由や背景、価値観などについて考えることができた。	日中の買い物の仕方(値段交渉、決済手段)について理解を深め、その異同について発見できた。	日中の買い物の仕方(値段交渉、決済手段)について理解を深め、その異同について発見しようとした。	日中の買い物の仕方(値段交渉、決済手段)について理解を深めることができた。
情報機器の活用	a 統計処理において情報機器を使用し、改善や工夫をした。 b 動画作成において情報機器を使用し、改善や工夫をした。	a 統計処理において積極的に情報機器を使用した。 b 動画作成において積極的に情報機器を使用した。	a 統計処理において情報機器を少し使用した。 b 動画作成において情報機器を少し使用した。	情報機器をほとんど使用せず、見ているだけだった。
グループワーク	グループワーク(スキット動画作成、ディスカッション、発表原稿作成など)において、積極的にかかわり、意見をまとめたり、改善や工夫も行った。	グループワーク(スキット動画作成、ディスカッション、発表原稿作成など)において、積極的に参加することができた。	グループワーク(スキット動画作成、ディスカッション、発表原稿作成など)において少し参加できた。	グループワーク(スキット動画作成、ディスカッション、発表原稿作成など)においてほとんど参加しなかった。

※このフォームは要素分解評価の一例です。評価要素の数、評価レベルの設定は適宜変えてかまいません。

作り方の詳細については『外国語学習のめやす』pp.068～「ルーブリックによる評価とその作り方」をご参照ください。